



## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月8日

上場会社名 株式会社ユーグレナ 上場取引所 東  
コード番号 2931 URL <http://www.euglena.jp/>  
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）出雲 充  
問合せ先責任者（役職名）取締役代表執行役員Co-CEO兼CFiO（氏名）若原 智広（TEL）03(3454)4907  
半期報告書提出予定日 2024年8月8日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		調整後EBITDA(※)		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期 中間期	23,649	3.7	2,122	66.8	348	—	309	—	△267	—
2023年12月期 中間期	22,805	5.7	1,272	△42.7	△760	—	△639	—	△914	—

※キャッシュ・フロー重視の経営にシフトする観点から、当社のキャッシュ・フロー創出力を示す指標として調整後EBITDAを開示しております。調整後EBITDAの定義、計算方法につきましては、「3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）」をご覧ください。

（注）包括利益 2024年12月期中間期 △325百万円（－％） 2023年12月期中間期 △884百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	△2.02	—
2023年12月期中間期	△7.88	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	70,283	31,328	44.5
2023年12月期	59,619	20,214	33.9

（参考）自己資本 2024年12月期中間期 31,300百万円 2023年12月期 20,213百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,000	3.3	3,800	71.0	—	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

（参考）調整後EBITDAは、EBITDA（営業利益＋のれん償却費及び減価償却費）＋助成金収入＋株式関連報酬＋棚卸資産ステ  
ップアップ影響額、として算出しております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) 株式会社サティス製薬及び日本ビューテック株式会社  
除外 1社 (社名) 株式会社はこ

(注) 詳細は、添付資料P. 11「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(当中間期における連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(中間期)

2024年12月期中間期	136,311,451株	2023年12月期	117,150,662株
2024年12月期中間期	20,605株	2023年12月期	20,605株
2024年12月期中間期	132,269,043株	2023年12月期中間期	116,048,534株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(当中間期における連結範囲の重要な変更) .....	11
(セグメント情報等の注記) .....	12

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間は、ヘルスケア事業においては直販売上高が概ね横ばいで推移するとともに、2024年3月31日をみなし取得日として連結子会社化した株式会社サティス製薬及び日本ビューテック株式会社（以下、両社合わせて「サティス製薬グループ」）の連結業績寄与によりOEM・原料・海外売上高が大きく伸長しました。この結果、バイオ燃料事業においては軟調な市場環境により売上高が当初計画を下回ったものの、売上高は23,649百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

また、当社は、キャッシュ・フロー重視の経営の観点から、当社のキャッシュ・フロー創出力を示す指標として調整後EBITDAを開示しております。調整後EBITDAは、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費)+助成金収入+株式関連報酬+棚卸資産ステップアップ影響額として算出しております。サティス製薬グループの連結寄与に加えて、黒字体質への転換に向けた収益構造の改善・最適化が進捗していることや、バイオジェット・ディーゼル燃料実証プラント（以下「実証プラント」）の稼働を2024年1月末に終了したことに伴う研究開発費の縮小により、助成金収入は前年同期比で減少したものの、当中間連結会計期間の調整後EBITDAは2,122百万円（前年同期比66.8%増）となりました。

この結果、キューサイ株式会社（以下「キューサイ」）やサティス製薬グループの連結子会社化等の過去のM&A案件に伴う無形固定資産及びのれん等の償却費を計上したものの、営業利益は348百万円（前年同期は営業損失760百万円）となり、また、為替差益や支払利息の計上に伴い、経常利益は309百万円（前年同期は経常損失639百万円）となり、いずれも黒字化を達成しました。一方、事業ポートフォリオの選択と集中を進める一環として、沖縄バスケットボール株式会社及び株式会社はこの株式譲渡、並びに完全子会社であった株式会社LIGUNA（2024年7月1日付で吸収合併）が保有していた同社本社の土地建物の譲渡に伴う特別損益を計上した結果、親会社株主に帰属する中間純損失は267百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失914百万円）となりました。

前第2四半期連結会計期間から当第2四半期連結会計期間までの各四半期の業績推移は以下のとおりです。

	前第2四半期 連結会計期間	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間
売上高（百万円）	11,967	11,274	12,402	11,154	12,494
調整後EBITDA(百万円)	495	707	242	1,071	1,050
営業損益（百万円）	△584	△198	△505	302	46
経常損益（百万円）	△528	△157	△621	266	43

セグメント別の状況については、以下のとおりです。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業においては、「収益構造の筋肉質化」「成長ブランドとファン顧客の育成」「メーカー機能の強化」の3つの方針を軸に、サステナブルな収益成長基盤の構築に取り組んでおります。当中間連結会計期間は、広告宣伝投資の機動的コントロールやクリエイティブ改善により投資効率の最適化を図るとともに、商品の拡充やリニューアル、メディア露出の拡大やクロスチャネル展開等によるブランド育成に取り組んでおり、当社の「CONC」が大きく伸長するとともに、当社の「からだにユーグレナ」「one」、キューサイの「コラリッチ」「ひざサポートコラーゲン」では堅調な推移となりました。また、OEM取引では、既存顧客取引の維持・拡大に努めつつ新規取引先開拓を進めた他、化粧品OEMを展開するサティス製薬グループの連結子会社化が連結業績に大きく寄与しました。この結果、セグメント売上高は22,030百万円（前年同期比7.4%増）となりました。

セグメント損益においては、当中間連結会計期間は、キューサイやサティス製薬グループの連結子会社化等の過去のM&A案件に伴う無形固定資産及びのれん等の償却費1,296百万円を計上する一方、サティス製薬グループの連結子会社化が連結業績に寄与した他、広告宣伝投資の機動的なコントロールの徹底や物流費率の削減等のコストシナジー創出に向けた施策を推進した結果、セグメント利益は1,653百万円（前年同期比128.3%増）となりました。

(バイオ燃料事業)

バイオ燃料事業においては、2022年12月に、マレーシアにおいて商業規模のバイオ燃料製造プラント(以下「本商業プラント」)を建設・運営するプロジェクトを検討していることを発表し、以降、本商業プラント建設に係る技術的・経済的な実現可能性評価を進めてきました。そして、2024年7月に、当社並びにグローバル大手統合エネルギー企業であるPetroliam Nasional Berhad及びEnilive S.p.A.(以下「本合弁パートナー」)の各社において本プロジェクトへの最終投資決定を行い、また、本合弁パートナー間で合弁会社の設立・運営等及び株主間契約の主要な内容に関して合意するに至りました。本商業プラントの原料処理能力は年間約65万トン、バイオ燃料の製造能力は最大で日産1万2,500バレル(年産約72.5万KL相当)となる見通しで、今後、2024年第4四半期中に合弁会社の設立を完了し、2028年下期迄に本商業プラントの稼働を開始することを予定しています。

また、2024年1月末に実証プラントの稼働を終了する一方で、商業化後に必要となる大規模・継続販売やサプライチェーン構築に向けて、国内外パートナーと連携したバイオ燃料のユーザー開拓やトレーディングを推進しております。軟調な市場環境を踏まえて大口取引は未実施となったものの、海外パートナー企業等から調達したバイオ燃料の国内販売が順調に進捗しております。さらに2024年5月には、日本空港ビルデング株式会社との間で、羽田空港におけるエアラインに対するSAFの供給・販売の事業化に向けたサプライチェーン構築を共同で検討する基本合意書を締結しました。

研究開発活動については、これまで蓄積してきた微細藻類ユーグレナの大規模培養に関する研究開発成果をはじめとする知見や技術を活用しながら、ユーグレナなどの微細藻類、その他の藻類や植物など、バイオ燃料原料用途のバイオマス生産・利用の最大化・最適化を中心とする研究を推進しております。

以上の結果、当中間連結会計期間は、セグメント売上高306百万円(前年同期比66.0%減)、セグメント損失は251百万円(前年同期はセグメント損失432百万円)となりました。

(その他)

当中間連結会計期間は、大協肥糧株式会社を中心に肥料領域における事業拡大に取り組むとともに、バイオインフォマティクス領域、ソーシャルビジネス領域、先端研究領域においても、事業成長や事業開発に向けた投資を継続しております。以上の結果、当中間連結会計期間は、セグメント売上高1,312百万円(前年同期比5.7%減)、セグメント損失は242百万円(前年同期はセグメント損失189百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は70,283百万円となり、前連結会計年度末と比較して10,664百万円の増加となりました。これは主にサティス製薬グループを連結の範囲に含めたこと等により現金及び預金が3,299百万円、有形固定資産が1,173百万円、のれんが5,981百万円それぞれ増加したこと等によるものです。なお、のれんは暫定的に算定された金額です。

負債は前連結会計年度末から449百万円減少し、38,954百万円となりました。これは主に短期借入金が1,109百万円、社債が1,000百万円それぞれ増加した一方で、繰延税金負債が1,286百万円、未払金が841百万円、長期借入金が283百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末から11,113百万円増加し、31,328百万円となりました。この結果、自己資本比率は44.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末から3,264百万円増加し、18,915百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、助成金の受取額48百万円、法人税等の還付額461百万円があったものの、法人税等の支払額586百万円等により、16百万円の支出となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出505百万円等により、361百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出1,929百万円があったものの、短期借入金の増加1,059百万円、社債の発行による収入1,000百万円等により、507百万円の収入となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、2024年2月14日「2023年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表した通期業績予想を下記のとおり修正しております。修正前後の比較については、下記の表に記載の通りです。

売上高につきましては、前回公表した通期業績予想である52,500百万円に対する当中間連結会計期間における進捗率は45.0%となり、ヘルスケア事業及びその他事業が概ね計画通りに推移する一方で、バイオ燃料事業において軟調な市場環境を踏まえて大口取引が未実施となったことにより、当初計画を下回る結果となりました。第3四半期連結会計期間以降は、ヘルスケア事業においては引き続き堅調な推移を目指すものの、株式会社はこが2024年6月末の株式譲渡に伴い連結範囲から外れることで売上高が押し下げられること、及びバイオ燃料事業においては市場環境の見通しが依然不透明であり、大口取引に関しては引き続き慎重に取り組んでいく方針のもと計画を保守的に見直したこと等から、通期の売上高は48,000百万円を見込んでおり、前回公表した通期業績予想を下回る見通しです。

調整後EBITDAにつきましては、前回公表した通期業績予想である3,600百万円に対する当中間連結会計期間における進捗率は58.9%となり、ヘルスケア事業における限界利益率の改善が順調に進捗したことや、広告宣伝投資の拡大が想定を下回ったこと等により、計画を上回って推移しました。第3四半期連結会計期間以降は、連結業績に寄与してきた株式会社はこが連結範囲から外れることが下振れ要因となるものの、ヘルスケア事業における上期の堅調な進捗や更なるコスト削減を見込むことから、通期の調整後EBITDAは3,800百万円を見込んでおり、前回公表した通期業績予想を上回る見通しです。

[2024年12月期 通期連結業績予想値の修正 (2024年1月1日~2024年12月31日)]

(単位：百万円)

	売上高	調整後EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
前回発表予想(A)	52,500	3,600	—	—	—
今回発表予想(B)	48,000	3,800	—	—	—
増減額(B-A)	△4,500	200	—	—	—
増減率(%)	△8.6	5.6	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期)	46,482	2,222	△1,464	△1,419	△2,652

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,791	19,091
受取手形及び売掛金	3,817	4,152
商品及び製品	2,129	2,493
仕掛品	430	422
原材料及び貯蔵品	1,124	1,448
その他	1,217	1,675
貸倒引当金	△81	△86
流動資産合計	24,431	29,196
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,319	7,947
機械装置及び運搬具	3,446	3,988
工具、器具及び備品	836	1,084
土地	2,062	2,231
リース資産	101	119
建設仮勘定	6	285
減価償却累計額	△7,266	△8,974
有形固定資産合計	5,506	6,680
無形固定資産		
のれん	11,639	17,620
顧客関連資産	14,796	13,678
その他	1,328	1,378
無形固定資産合計	27,764	32,677
投資その他の資産		
投資有価証券	836	707
差入保証金	350	486
繰延税金資産	750	155
その他	127	554
貸倒引当金	△148	△175
投資その他の資産合計	1,917	1,729
固定資産合計	35,187	41,087
資産合計	59,619	70,283

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,396	1,443
短期借入金	3,293	4,402
未払金	4,009	3,168
契約負債	1,406	1,473
リース債務	6	4
未払法人税等	724	572
賞与引当金	386	180
資産除去債務	195	171
その他	852	859
流動負債合計	12,271	12,278
固定負債		
社債	—	1,000
転換社債型新株予約権付社債	4,800	4,800
長期借入金	16,971	16,687
リース債務	1	8
役員退職慰労引当金	4	4
退職給付に係る負債	412	414
資産除去債務	74	181
繰延税金負債	4,857	3,570
その他	10	10
固定負債合計	27,133	26,676
負債合計	39,404	38,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,867	16,305
資本剰余金	15,198	16,856
利益剰余金	△10,961	△1,885
自己株式	△34	△34
株主資本合計	20,070	31,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	138	57
繰延ヘッジ損益	1	△0
為替換算調整勘定	1	0
退職給付に係る調整累計額	1	0
その他の包括利益累計額合計	142	58
新株予約権	1	1
非支配株主持分	—	26
純資産合計	20,214	31,328
負債純資産合計	59,619	70,283



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
 (中間連結損益計算書)  
 (中間連結会計期間)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	22,805	23,649
売上原価	7,023	7,215
売上総利益	15,781	16,434
販売費及び一般管理費	16,541	16,085
営業利益又は営業損失 (△)	△760	348
営業外収益		
受取利息	1	2
為替差益	63	110
助成金収入	303	48
受取手数料	17	1
保険解約返戻金	—	18
持分法による投資利益	—	28
その他	61	48
営業外収益合計	448	258
営業外費用		
社債利息	0	2
支払利息	241	230
持分法による投資損失	8	—
株式交付費	37	2
その他	38	61
営業外費用合計	327	297
経常利益又は経常損失 (△)	△639	309
特別利益		
新株予約権戻入益	1	0
固定資産売却益	33	52
投資有価証券売却益	—	329
投資有価証券評価益	—	15
特別利益合計	34	398
特別損失		
固定資産売却損	7	—
投資有価証券評価損	5	—
関係会社株式売却損	—	88
減損損失	—	1,094
特別損失合計	13	1,183
税金等調整前中間純損失 (△)	△618	△476
法人税、住民税及び事業税	511	475
法人税等調整額	△217	△716
法人税等合計	294	△241
中間純損失 (△)	△913	△235
非支配株主に帰属する中間純利益	0	32
親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△914	△267

(中間連結包括利益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純損失 (△)	△913	△235
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	△85
繰延ヘッジ損益	△1	△2
為替換算調整勘定	25	△6
退職給付に係る調整額	△1	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	4	5
その他の包括利益合計	29	△90
中間包括利益	△884	△325
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△884	△352
非支配株主に係る中間包括利益	0	26

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純損失 (△)	△618	△476
減価償却費	1,255	1,012
のれん償却額	423	604
減損損失	—	1,094
株式報酬費用	59	112
投資有価証券評価損益 (△は益)	5	△15
有形固定資産売却損益 (△は益)	△25	△52
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	88
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△329
保険解約返戻金	—	△18
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	19	20
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△103	△239
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3	△5
受取利息及び受取配当金	△1	△2
助成金収入	△303	△48
新株予約権戻入益	△1	△0
支払利息	242	233
為替差損益 (△は益)	0	0
株式交付費	37	—
持分法による投資損益 (△は益)	8	△28
売上債権の増減額 (△は増加)	577	△91
棚卸資産の増減額 (△は増加)	425	△128
仕入債務の増減額 (△は減少)	△321	△175
未払金の増減額 (△は減少)	△606	△354
未払又は未収消費税等の増減額	142	121
その他	△41	△450
小計	1,178	871
利息及び配当金の受取額	1	2
利息の支払額	△242	△232
助成金の受取額	291	48
実証プラント稼働終了に伴う支出	—	△581
法人税等の還付額	138	461
法人税等の支払額	△867	△586
営業活動によるキャッシュ・フロー	500	△16
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△0	△1
有形固定資産の取得による支出	△226	△172
有形固定資産の売却による収入	104	52
無形固定資産の取得による支出	△163	△181
投資有価証券の取得による支出	△25	—
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	364
投資事業組合からの分配による収入	—	56
短期貸付けによる支出	△5	△13
差入保証金の回収による収入	5	5
差入保証金の差入による支出	△35	△2
保険積立金の解約による収入	—	18
資産除去債務の履行による支出	△5	△29
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△505
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△351	△361

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△183	1,059
長期借入れによる収入	100	383
長期借入金の返済による支出	△1,481	△1,929
新株予約権付社債の発行による収入	4,800	—
社債の発行による収入	—	1,000
新株予約権の発行による収入	1	—
株式の発行による収入	2,962	—
自己株式の取得による支出	△0	—
リース債務の返済による支出	△4	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,195	507
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,344	134
現金及び現金同等物の期首残高	9,814	15,651
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	3,129
現金及び現金同等物の中間期末残高	16,158	18,915

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2024年1月10日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社とし、株式会社サティス製薬及び日本ビューテック株式会社を株式交換完全子会社とする簡易株式交換を実施することを決議し、2024年2月1日付で株式交換を実施したことにより、資本準備金が10,615百万円増加しております。また、2024年3月19日開催の第19期定時株主総会において、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分に関する決議の承認を受け、2024年3月19日付で資本準備金を9,396百万円減少しております。また、株式報酬としての新株発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ437百万円増加しています。

この結果、当中間会計期間末において、資本金が16,305百万円、資本剰余金が16,856百万円となっています。

（当中間期における連結範囲の重要な変更）

当中間連結会計期間において、株式会社サティス製薬及び日本ビューテック株式会社の全株式を取得したことにより連結子会社にしております。なお、いずれもみなし取得日を2024年3月31日としたため、第1四半期連結会計期間は貸借対照表のみ連結し、当第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

また、当第2四半期連結会計期間において、株式会社はこの全株式を譲渡したことにより、連結の範囲から除外しております。なお、当中間連結会計期間は損益計算書のみ連結しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	バイオ燃料 事業	その他事業			
売上高						
直販(注3)	16,590	—	—	16,590	—	16,590
流通(注4)	1,877	—	—	1,877	—	1,877
OEM・原料・海外(注5、 6、7)	549	—	—	549	—	549
その他(注8)	1,493	901	1,392	3,787	—	3,787
顧客との契約から生じる収益	20,510	901	1,392	22,805	—	22,805
外部顧客への売上高	20,510	901	1,392	22,805	—	22,805
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	20,510	901	1,392	22,805	—	22,805
セグメント利益又は損失(△)	724	△432	△189	101	△862	△760

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△862百万円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. 直販は、自社グループの機能性食品や化粧品等を、インターネットや電話などで直接消費者に販売する形態です。
4. 流通は、自社グループの機能性食品や化粧品等を、様々な小売店舗に直接または食品商社や美容商社等を通じて卸売りする形態です。
5. OEMは、取引先と共同で製品仕様を決定し、取引先からの注文に基づき当社グループにて製品製造を行い、取引先へ販売するビジネスモデルです。
6. 原料は、主に伊藤忠商事株式会社を通じ、製薬会社、食品メーカー等にユーグレナ粉末等を提供するビジネスモデルです。
7. 海外は、日本国外でのユーグレナ市場創出に向けて、東アジア中心に事業展開を進めております。
8. その他は、主に遺伝解析サービス、バイオ燃料、肥料、一次産品等の販売及び広告運用受託による収入であります。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	バイオ燃料 事業	その他事業			
売上高						
直販(注3)	16,495	—	—	16,495	—	16,495
流通(注4)	1,768	—	—	1,768	—	1,768
OEM・原料・海外(注5、 6、7)	2,256	—	—	2,256	—	2,256
その他(注8)	1,509	306	1,312	3,128	—	3,128
顧客との契約から生じる収益	22,030	306	1,312	23,649	—	23,649
外部顧客への売上高	22,030	306	1,312	23,649	—	23,649
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	—	0	△0	—
計	22,030	306	1,312	23,649	△0	23,649
セグメント利益又は損失(△)	1,653	△251	△242	1,159	△811	348

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△811百万円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 直販は、自社グループの機能性食品や化粧品等を、インターネットや電話などで直接消費者に販売する形態です。

4. 流通は、自社グループの機能性食品や化粧品等を、様々な小売店舗に直接または食品商社や美容商社等を通じて卸売りする形態です。

5. OEMは、取引先と共同で製品仕様を決定し、取引先からの注文に基づき当社グループにて機能性食品や化粧品等の製品製造を行い、取引先へ販売するビジネスモデルです。

6. 原料は、食品メーカー等にユーグレナ粉末等を提供するビジネスモデルです。

7. 海外は、日本国外でのユーグレナ市場創出に向けて、東アジア中心に事業展開を進めております。

8. その他は、主に遺伝解析サービス、バイオ燃料、肥料、一次産品等の販売及び広告運用受託による収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社サティス製薬及び日本ビューテック株式会社を連結子会社化したことにより、のれんが6,914百万円増加しております。なお、のれんの金額は、当中間連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。